県立伊勢崎特別支援学校　学校評価一覧表　（平成２８年度版）

羅針盤			達成度			改善状況のまとめ	次年度の課題
評価対象	評価項目	具体的数値項目	①	②	総合		
Ⅰ　幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1　保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えていますか。	○学校からの通信・連絡帳や面談などによる情報提供に、80%以上の保護者から満足を得ている。	A	A	A	○学校からの通信・連絡帳や面談などによる情報提供に努めた。 ○各委員会で話し合われた内容を、ＰＴＡ実行委員会で聞くことが出来て、それを反映して行事の精選ができた。また、今年度、新たな行事を行うことができた。	○今後も、通信・連絡帳をとおして、また、保護者それぞれの置かれた状況やニーズを踏まえた情報提供や相互理解に努める。 ○ＰＴＡ実行委員会で有意義な話し合いが出来るように、保護者の意見を吸い上げていく。前年度のＰＴＡ行事の「おまつり」の内容を検討し、改善していく。
		○学校行事やＰＴＡ活動などに参加している保護者が80%以上である。	A	A	A		
	2　保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。	○「個別の教育支援計画」について80%以上の保護者から、有用であると評価を得ている。	A	A	A	○現行の「個別の教育支援計画」に基づいて、保護者、地域、関係機関との共通理解を図ると共に、その書式の改善に取り組んできた。 ○相手校との情報交換を深めて、よりよい居住地交流となるよう努めてきた。	○「個別の教育支援計画」について、改善を図った書式を導入し、保護者、地域、関係機関と連携をさらに深めていく。 ○事前の情報交換と共に、その成果も相手校や保護者と共有できるようにして、居住地校交流の発展に努める。
		○居住地校交流を実施している児童生徒の80%以上の保護者が満足している。	A	A	A		
Ⅱ　地域の特別支援に関するセンター的な役割を果たしていますか。	3　幼稚園、小・中・高等学校等に在籍する障害のある児童生徒等の教育について、助言援助に努めていますか。	○伊勢崎市・玉村町エリア内の公立幼小中学校の40%から研修・相談等の依頼がある。	B	A	A	○年度の後半からこれまで依頼のなかった学校からの依頼があった。学校によって、管理職からの依頼であったり、教育支援委員会に関わる相談に特化している学校が複数あった。 ○保育所、幼稚園、特別支援学級からの相談は、比較的に記録用紙の作成がしやすく手交できた。通常学級の相談については、学級経営の視点が必須であり、作成しにくかった。	○今年度の数値上の実績だけでなく、具体的な事例、成果を加えて市内の園校長会・コーディネーター研修会等での広報を行う。その際に各園校の担任まで伝えていただけるようお願いをする。 ○学級経営の視点で助言が活用された事例を増やす。
		○相談依頼のあった幼小中学校のうち、80%の園校について相談記録の作成・手交を行う。	C	B	B		
Ⅲ　幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導をしていますか。	4　個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。	○「個別の指導計画」の立案・評価では、学年・学部での検討と共通理解とを、年に６回行っている。	A	A	A	○学年・学部、それに保護者との情報共有に努めつつ、「個別の指導計画」の立案・実施・評価に取り組んできた。また、その書式改善に取り組んできた。 ○全体会、及び学部の枠を超えた縦割りでの班を編成して、生活単元学習についての理解を深められるよう校内研修を行った。また、本校の児童生徒の実態に応じた支援方法に関わる現職研修や、外部講師を招いての夏季研修講演会を企画実施し、多数の教員が参加して研修することができた。	○新しい書式の「個別の指導計画」とその考え方を教師間で共有・共通理解を図り、これまでの取り組みをさらに発展させる。 ○生活単元学習の指導について、本年度の研修を生かし、実践授業をもとにした研修を企画立案し、さらに個に応じたきめ細かな指導ができるように、研修を深めていく。
		○児童生徒に満足感や達成感が得られるように指導の工夫をしていると80%以上の教職員が答えている。	A	A	A		
	5　指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。	○「個別の指導計画」に掲げた目標の80%以上を達成している。	A	A	A	○授業改善を目指した校内研修等により、教員の意識も高まり、指導内容の確実な定着を図る授業実現に寄り近づくことができた。	○今後とも、授業改善を学校として進めていくと共に、確実な定着を意識した目標設定や家庭との連携を進めていく。
Ⅳ　健康や安全の確保に努めていますか。	6　健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	○健康上、配慮の必要な対応について学期に２回以上、面談や連絡ノートなどで保護者と情報交換を行っている。	A	A	A	○面談や連絡ノート等で担任が保護者との情報交換を十分に行い、学部主事・学年主任を軸に、職員の共通理解を図り、支援することで80%以上の保護者の満足を得た。 ○吐物処理方法やてんかん発作時の対応マニュアルを作成。職員に周知徹底を図った。ＡＥＤの使用方法は救命講習で確認した。	○健康上､配慮が必要な児童生徒について年度始めに職員へ周知し、共通理解を図る。 ○各マニュアルの周知を、年度の早い時期に行い、児童生徒の支援に活かせるようにする。
		○吐物処理方法やてんかん発作時の対応、ＡＥＤの使用方法など職員で学期に１回確認している。	A	A	A		
	7　危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	○地域防災活動マニュアルに基づき、ＮＴＴ伝言ダイヤル利用の体験を6月、9月、12月、3月の年4回実施する。	A	A	A	○ＮＴＴ伝言ダイヤル利用の体験を、保護者・教職員ともに、年４回実施することができた。実施の度にアンケート調査を行い、改善に努めた。 ○養護教諭、学部主事と怪我の状態を確認し、適切な対応を心掛けた。また、保護者に早い段階で連絡をとり、十分な説明を行った。	○保護者・教職員ともに、防災意識を高めることができるように、ＮＴＴ伝言ダイヤルの利用体験の実施の継続と、保存食の取り組みを進めていく。 ○怪我の予防を心掛けるとともに、今後も迅速な対応と丁寧な説明を行っていく。
		○児童生徒の首から上の怪我は､すべて､迅速な対応と丁寧な説明をしている。	A	A	A		
Ⅴ　将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。	8　キャリア教育の視点から、指導内容を整理して系統的な指導を行っていますか。	○高等特別支援学校に出向いての作業実習体験(中３)を実施する。	B	B	B	○試行後、目的や内容などを担当職員で検討した。進路選択に加え、交流の目的が加味されるような方向性について検討した。 ○キャリア教育全体計画案を作成し、進路指導部内で共通理解を図った。また、その実施に向けての方向性を話しあった。	○相手校とよく相談し、進路選択に加え、交流教育も視野に入れた体験が共通の目的となるように働きかけていく。 ○キャリア教育に対する学校全体の理解を図るため、キャリア教育全体計画案の作成、実施がよりよく行われるような研修を計画する。
		○外部講師による生徒の学習や教員の研修の機会が３回以上ある。	A	A	A		
	9　保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	○「進路に関する行事」を年10回以上実施している。	A	A	A	○生徒が多く進学する高等特別支援学校の先生や卒業生の保護者を招き、お話をしていただくことで将来に向けて身に付けたい力や保護者の願いについての理解を深めることができた。	○地域の障害福祉行政、就労や生活支援にかかわる人たちに、本校の教育活動の様子を見ていただき、知的障害のある生徒に対する理解を深めてもらい、ご意見をいただけるようにする。
Ⅵ　組織を意識して動いていますか。	10　PDCAサイクル活用を徹底していますか。	○80%以上の行事について、実施後の反省・課題を報告書にまとめ、直近の運営委員会で報告している。	A	A	A	○ほとんどの行事について､実施後の反省・課題を報告書にまとめ、運営委員会等で報告することができた。また、各担当について来年度への改善案を申し送ることができた。	○今後、各部・係が改善案を活かして計画・実行を行うと共に、学校組織自体が、より機能するよう改善に取り組む。